



平成 29 年度

中堅教諭等資質向上研修講座（特別支援学校）

第 9 日

●平成 30 年 1 月 23 日（火）

記録的な大雪の影響で、開始時刻を 1 時間遅らせてのスタートとなりました。

午前は、県立医療大学の田辺博之先生をお招きして「重度・重複障害児の理解と医療との連携」をテーマにご講義いただきました。重度・重複障害のある子供たちの中には、感覚の発達がゆっくりだったりアンバランスがあったりする子がいます。田辺先生には、そうした子供たちの最大限の発達を促すために、感覚に焦点を当てて働きかける「感覚統合」の考え方に基づいた具体的な支援例をたくさん紹介いただくと共に、医療・福祉機関との情報共有の大切さについてお話をいただきました。

午後は、「医療・福祉機関との連携」をテーマに、特別支援学校の 2 人の先生の実践発表と研究協議を行いました。医療・福祉との連携というどうしても“障害の重い子供のため”というイメージをもってしまいがちですが、いわゆる障害が軽度の子供の指導を行う上でも十分に考慮しなくてはいけないことや、連携することは手段であり目的ではないということ学びました。実践発表をしてくださった先生の「連携の中心は子供、ネットワークを作る中心は学校」という言葉はとても印象に残りました。